

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
E142H019		気象学 (Meteorology)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 西垣 肇 E-mail gaki@oita-u.ac.jp 内線 7571												
授業の概要	地球大気的基本的な特徴と性質を扱う。続いて、その天気図スケールの現象を説明する。さらに、地域の特徴的な気象について、その現象と調査方法を説明する。知ること・理解することの楽しみや、気象学の進めかた・考えかたにもふれる。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 大気・気象的基本的な特徴と現象を述べることができる。																		
目標2 基本的な現象がどのように理解されているのかを説明することができる。																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 導入																		
2 大気圧とその鉛直分布																		
3 大気の安定性																		
4 大気中の水蒸気																		
5 大気における放射																		
6 温室効果と気候																		
7 地上天気図と高層天気図																		
8 天気図規模の気象																		
9 大気・海水の大規模運動																		
10 大気・海洋の大循環																		
11 地域の気象																		
12 海の波																		
13 潮汐のしくみと予報																		
14 気象・海洋の観測																		
15 気象学・海洋物理学の特徴																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	各回の冒頭に質問を提示し、受講生に既存の知識や考えを確認してもらう。					工夫	その他の										
ラーニング	B:意見の表現・交換																	
ラーニング	C:応用志向																	
ラーニング	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	「導入問題」を出題する(10h)。																
	事後学修	小テスト、課題問題を出題する(10h)。納得がいくまで調べ、考えて復習をすること(20h)。																
教科書	教科書を指定しない																	
参考書	一般気象学・第2版補訂版, 小倉義光, 2016, 東大出版 大分県の気象探訪, 川西博, 1994, 大分合同新聞社																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	期末試験	50%																
	課題レポート	50%																
注意事項	なし																	
備考	なし																	
リンク																		
	URL																	